

審 議 結 果

次の審議会等を下記のとおり開催した。

審議会等の名称	令和5年度第1回益田市総合戦略審議会
開催日時	令和5年6月6日（火）13：30～16：20
開催場所	益田市役所本庁3階大会議室
出席者	<p>○出席者          [審議会委員]          竹内直実副会長、渡辺淳一委員、森脇秀治委員、藤原眞砂委員、重親政継委員、吉崎浩之委員          [事業担当課]          観光交流課 板井課長、山田主任          産業支援センター 松本所長          学校教育課 田原課長          協働のひとづくり推進課 岡崎課長、田原課長補佐、中島主査、田淵主査          [事務局]          石川政策企画局長、田原政策企画課長、石田総合戦略室長、吉田主任主事</p> <p>○欠席者          [審議会委員]          森本恭史会長、澄川聡美委員、大屋剛委員</p>
議題	<p>1「令和4年度企業版ふるさと納税活用事業」の検証について          2「令和4年度地方創生交付金活用事業」の検証について          3「第2期まち・ひと・しごと創生益田市総合戦略」の検証方法について          4「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を踏まえた改定について</p>
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0名
問合せ先	政策企画局政策企画課 電話 0856-31-0121

審議経過

1. 開会 ○挨拶 ○新任委員紹介 ○資料説明 ○会長・副会長の選任	
2. 審議内容	
(1)「令和4年度企業版ふるさと納税活用事業」の検証について	
事務局からの説明（資料1） ○「令和4年度企業版ふるさと納税活用事業」の検証について ・令和4年度は益田市が作成した2つの地域再生計画に基づき、8事業を実施した。 ・1つ目の地域再生計画「ひとづくりを軸とした持続可能な地域プロジェクト」では、「ひとづくり推進事業」、「市内高校連携推進事業」、「小規模校合同学習実施事業」の3事業を実施した。 ・2つ目の地域再生計画「益田市・まち・ひと・しごと創生推進事業」では、「観光誘客支援事業」、「益田市版『ツナガル』事業」、「理数系人材育成協働事業（松江高専）」、「理数系人材育成協働事業（島根大学）」、「市内高校連携推進事業」の5事業を実施した。 ・それぞれの事業について、担当課から取組内容や成果、今後の事業展開について説明を行う。その後、委員に質問・意見を出してもらう。 ※「市内高校連携推進事業」については「益田市・まち・ひと・しごと創生推進事業」の中で説明する。	
協働のひとづくり推進課	「ひとづくり推進事業」について説明する。本事業の目的は、益田市に住む子ども達に対話を通じて、ロールモデルを見つけてもらうこと。多様な価値観に触れ、自分の人生を能動的に生きていく力を養ってもらうためのライフキャリア教育に取り組んでいる。 主な取組は3つある。1つ目は「益田版カタリ場」で、小中高生が1対1の

	<p>対話を通して自分の生き方について考えるきっかけの場としている。2 つ目は「高校生期のライフキャリア教育」で、高校生の学校外での学びや活動をコーディネートする教育魅力化コーディネーターを配置している。3 つ目は、「JFA ころのプロジェクト『夢の教室』」で、日本サッカー協会に所属する元アスリートや、現役アスリートが自身の夢を実現するためにどんなことをしたか、挫折や悩んだときにどう乗り越えたかについて、子ども達に語ってもらう事業を実施している。</p> <p>これらの取組の成果として、成人式における新成人へのアンケートで「益田市には魅力的な大人が多い」と答えた割合が 93.5%、「将来、益田に住みたい」と答えた割合が 80.9%となっており、数値的な目標は概ね達成している。</p> <p>今後はこの事業を継続実施するに当たり、子ども達の意識の変化が、益田に帰ってくるというような具体的な行動に繋がっていくのかに着目しながら進めていきたい。</p>
学校教育課	<p>「小規模校合同学習実施事業」について説明する。市内には小学校が 15 校あるが、対象はそのうち、6 校で、1 クラスの人数が少ない小規模校である。そうした学校では、大人数で出来るスポーツ等の活動を通じて得られる経験の機会が非常に少ないため、そうした機会を提供していくもの。</p> <p>具体的な取組として、「小学校合同スポーツ交流会」と「小規模オンライン交流会」の 2 つである。「小学校合同スポーツ交流会」について、昨年度はサッカーを中心に実施した。「小規模オンライン交流会」では、普段の学校活動の中でそれぞれが学習した内容をオンラインで発表し合った。</p> <p>こうした事業を通じて、児童の自尊感情を高める等の成果が出ている。また、全国学力・学習状況調査における「難しいことでも失敗をおそれないで挑戦していますか」という問いに対して、児童の 70.6%が肯定的回答をしている。今後もこれらの事業を継続していきたい。</p>
委員	<p>「令和 4 年度企業版ふるさと納税活用事業」についての担当課からの説明を基に委員の方々の質問や意見をいただきたい。</p>
委員	<p>「ひとづくり推進事業」にある「益田版カタリ場」について、私の知人が参加しており、その話を伺った。大人側としても良い経験であり、子ども達も前向きにとらえているようで、非常に良い取組だと思う。</p>
委員	<p>「JFA ころのプロジェクト『夢の教室』」について、益田にいてもアスリートと繋がりその経験を伝えてもらえるということで、良い事業だと思う。</p> <p>子ども達が対象の事業ではあるが、保護者も子どもと一緒に成長していくものであるから、保護者も一緒に参加できたら良いと思う。</p>
協働のひとづくり推進課	<p>「JFA ころのプロジェクト『夢の教室』」について、保護者の方の参加は、制限されているものではないという認識であるが、改めて確認する。</p>
委員	<p>次に 2 つ目の「益田市・まち・ひと・しごと創生推進事業」に基づく 5 事業の説明に移りたい。</p>
観光交流課	<p>「観光誘客支援事業」である「石見神楽を活用した観光振興及び次世代育成プロジェクト」について説明する。</p> <p>本事業の目的は、石見神楽を活用したまちづくりを推進するため、益田独自の「益田神楽」ブランドの創出と、石見神楽を活用した観光振興及び次世代育成プログラムを実施するとともに、これらの取組を継続的に取り組む事業体の構築を目指すことにある。事業期間としては令和 3 年度から令和 5 年度の 3 年間を実施する予定。</p> <p>令和 4 年度については、令和 3 年度に計画した取組を実施する 1 年目であった。取組内容については大きく 2 つある。「石見神楽による観光・産業振興策の実施」と「石見神楽を活用した次世代育成プログラムの実施」である。</p> <p>1 点目の「石見神楽による観光・産業振興策の実施」について、3 つの取組を行った。</p> <p>1 つ目は「石見神楽のファンを増やすため市外、県外公演の創出」である。令和 4 年 8 月 21 日に北九州公演を行い、来場者数は 320 名、令和 4 年 12 月 30 日から令和 5 年 1 月 1 日に東京公演を行い、来場者数は 1,300 名であった。</p> <p>2 つ目は「新しい観光・体験コンテンツの創出」で、神楽社中体験や公園バックヤードツアー、聴覚障がい者向けの鑑賞体験などを通じ、石見神楽の鑑賞だけでなく、新しいコンテンツの創出に取り組んだ。</p> <p>3 つ目は「石見神楽をモチーフとした商品開発」である。</p>

	<p>2点目の「石見神楽を活用した次世代育成プログラムの実施」について、子ども・中高生・社会人の年代に対してそれぞれプログラムを組み、石見神楽に関わることを目的として取り組んでいる。また、石見神楽に関する機運醸成のためのイベントや、石見神楽の担い手になるためのガイドブックの作成などにも取り組んでいる。</p> <p>今後は、令和6年度以降に独自で運営できるように一般社団法人の設立や、令和4年度実施した内容の分析・検証を行い引き続きプロジェクトを推進していく。</p>
政策企画課	<p>「益田市版『ツナガル』事業」について説明する。</p> <p>本事業は、県外の大学生等に進学後も地元と繋がりを持ち続けてもらう機会を設け、学生の市内就職を促進することを目的としている。また、島根県のモデル事業にもなっており、益田市以外では、松江市、出雲市、雲南市、川津町、津和野町で同様の事業を実施している。</p> <p>令和4年度は、3つの事業を実施した。1つ目は「オンラインでつながる事業」で、LINE公式アカウント「ますだより」を立ち上げ、益田市出身者とのコミュニティ作りを行った。実績は、高校生3年生の生徒総数516名に対し、140名の登録があり、割合としては27.1%であった。また、学生・社会人においては、258名の登録があった。「ますだより」では益田市を楽しむイベント情報や、益田市の暮らしを楽しんでいる人のリアルな暮らしぶりを紹介している。メッセージの開封率も高く、情報が届いていると思われる。今後は今の学生によるコミュニティを構築しつつ、登録したメリットを感じられるようなコンテンツの作成を作成していく。</p> <p>2つ目は「ひとつづくりでつながる事業」である。この事業は益田版インターンシップ制度を導入するというもので、就業体験だけでなく、先輩社員との交流などライフキャリア体験を交えた形で実施している。夏のインターンシップでは市内8社が参加し5名の受け入れ、春のインターンシップでは市内3社が参加し3名の受け入れがあり、成果も上がっている。</p> <p>3つ目は「東京・大阪拠点でつながる事業」で、東京と大阪それぞれに拠点を設置している。各拠点と益田会場をオンラインで繋ぎ交流の場を設けた。令和5年度から具体的な実施となるが、アンケート調査等を活用し、取組を進めていく。</p>
産業支援センター	<p>「理数系人材育成協働事業（松江高専）」について説明する。令和3年11月に松江高専と連携協定を結び、令和4年度から本格的に事業実施した。</p> <p>具体的な取組内容は2つあり、1つ目は子ども達へのアプローチ、2つ目は高専と企業との連携促進である。子ども達へのアプローチとして、工作教室を開催し、延べ74名の参加があった。また、松江高専を訪問し、学校見学等を行い、益田出身の高専生と意見交換の場を設けた。企業との連携については、インターンシップの受入れ強化と、企業との交流機会の創出に取り組み、企業との意見交換懇談会の開催、個別に高専の先生方に企業訪問していただくなどの取組を行った。</p> <p>今後も、松江高専との連携を通じ、地域を担うひとつづくりと人材の確保、企業との連携を通じて地域経済の活性化を目指していきたい。</p>
学校教育課	<p>「理数系人材育成協働事業（島根大学）」について説明する。理数系人材を育成することを目的に島根大学と連携して取り組んでいる。</p> <p>具体的には夏休みと冬休み、学年末の休み（旧春休み）の長期休業を利用して、算数・数学パワーアップ教室を実施した。</p> <p>小学4年生から中学3年生の希望者を対象に、島根大学生が企画するコマ、教育委員会が実施するコマ、子ども達が持参した課題を行うコマの3つの内容で行っている。</p> <p>事業を通じ、参加した児童生徒の9割が参加前と比べて算数・数学が好きになったという回答をもらっている。また、大学生のアンケート調査でも肯定的な意見を頂いており、今後も引き続き事業展開していく。</p>
協働のひとつづくり推進課	<p>「市内高校連携推進事業」について説明する。令和4年度に新規事業として実施した事業であり、大きく2つのことに取り組んだ。</p> <p>1点目が「市内4高校の特色を生かした高校魅力化の取組」、2点目が「市内4高校の魅力を小中学生に発信する取組」です。</p> <p>1点目の高校の魅力化については、3つの取組を実施した。1つ目は「高度理数系人材育成支援業務委託」で、益田高校に委託し、中学3年生を対象に益田高校で継続的な授業体験を行った。2つ目は「農業・モノづくり人材育成業務委</p>

	<p>託」で、翔陽高校に委託し、産業の魅力発信や地産地消の推進などに取り組んだ。3つ目は「私立高等学校魅力化活動補助金」で、市内に2校ある私立高校が高校の魅力化を目的に実施する事業に対し、市が補助金を出すもの。令和4年度は東高校がeスポーツ部を新設しており、その施設及び関係機器の整備等に補助した。また、明誠高校が益田市出身のデザイナー及び地域プロジェクトプランナーと協働し、益田市の食と文化の記録を発信することを目的に冊子を制作しており、その製作費について補助を行った。</p> <p>2点目の魅力を小中学生に発信することについて、7月8日と9日に市民体育館を会場に、益田未来協働フェスタ2022を開催した。両日で1,000名の参加があり、市内4高校の魅力発信ブースでは、これまで報告してきた取組を中心に展開され、参加した小中学生に対して高校の魅力を伝えられた。</p> <p>令和5年度も引き続き取組んでいく。</p>
委員	「益田市・まち・ひと・しごと創生推進事業」に基づく5事業について、説明があったが、委員の意見はどうか。
委員	<p>石見神楽についての議論は観光協会や私も一緒に参加している。DMO（観光地域づくり法人）の会議でも非常に面白いアイデアが出ている。その辺りとも協力・連携し、さらなる活動に繋がっていけば良いと思う。</p> <p>「ツナガル」事業の学生の市内就職促進について。現在、全ての業界、全ての業種の課題として人手不足がある。そうした点からも県外の学生に対して、先輩が帰郷して地元で頑張っている様子を伝える等、引き続き情報発信していただきたい。</p>
観光交流課	1点目の石見神楽についてのご意見について、現在、観光協会や神楽関係の方々と連携させて頂いているところ。観光協会は旅行業の許可も取得済みで、神楽社中体験やユニバーサル神楽の体験等のプログラムの販売も行っており、今後も引き続き連携して取組を進めていく。
政策企画課	2点目の「ツナガル」事業についてのご意見について、資料にも掲載している「ますだより」に登録していただき、学生に情報を届けている。ライフキャリアの記事や益田で活躍している人の情報も掲載しているところ。今後は、学生が求めている情報を確認しながら情報発信を続け、益田市と繋がり続けてもらえるよう取り組んでいく。
委員	私から1点。LINEの公式アカウントの登録者数はどのくらいか。
政策企画課	3月末の時点で544名となっている。
委員	石見神楽の件について1点。情報発信するにあたり、YouTubeやTikTokといったものを活用されているのか。
観光交流課	YouTubeは利用している。また、石見神楽WEEKでは事業主体のみならず、見た方にハッシュタグを使ってSNSに上げていただくなどの取組も行っている。
委員	各事業について、令和4年度の決算額が出ているかと思うが、今回の会議では各事業・取組の予算的な内容も審議していくのか。
事務局	今回については、企業版ふるさと納税と地方創生交付金を活用した事業の金額を除いたところで、取組内容について審議していただき、次年度に向けてのご意見を賜りたい。
(2)「令和4年度地方創生交付金活用事業」の検証について	
<p>事務局からの説明（資料2）</p> <p>○「令和4年度地方創生交付金活用事業」の検証について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度は島根県が作成した地域再生計画に基づき7事業、益田市が作成した地域再生計画に基づき1事業を実施した。</li> <li>・島根県の地域再生計画「高校を核とした新たな人づくり・人の流れづくりプロジェクト」では、「益田市版『ツナガル』事業」、「理数系人材育成協働事業（松江高専）」、「理数系人材育成協働事業（島根大学）」、「未来の担い手育成事業」、「ひとづくり推進事業」、「市内高校連携推進事業」、「公民館管理・拠点化推進事業」の7事業を実施した。</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・益田市の地域再生計画「中世益田の歴史を活かしたまちづくり館（仮称）を拠点とした人材育成・確保プロジェクト」では、「日本遺産ビジターセンター整備事業」の1事業を実施した。なお、「日本遺産ビジターセンター整備事業」については、企業版ふるさと納税に加え、地方創生交付金も充当されています。</li> <li>・事業及び目標指標ごとに、達成度や今後の課題について説明した事業シートを作成している。1つの事業で、複数の目標指標を設定している場合は、複数の事業シートがある。それぞれの事業について担当課からシートに沿った説明した後、委員に質問・意見を出してもらう。</li> </ul>
政策企画課	<p>「益田市版『ツナガル』事業」について説明する。</p> <p>取組内容や成果、今後の事業展開については説明済みのため、省略する。まず、進捗管理について、目標指標は県外からのU・Iターン者数と設定し取組を進めている。令和4年度の実績は年間217人で、令和3年度に比べ増加している。これは新型コロナウイルス感染症による各規制が緩和されたことも一因でないかと考えている。</p> <p>令和4年度の自己評価について、項目中の費用対効果をCとしているのは、新規事業ということもあり、改善の余地がまだ多くあるということをお勧めし、このような形とさせていただいた。</p> <p>この事業を通じて企業側のご意見も知ることが出来たので、そういった点も反映させながら、学生と企業のマッチングを行っていきたい。</p>
産業支援センター	<p>「理数系人材育成協働事業（松江高専）」について説明する。</p> <p>取組内容等については説明済みのため省略する。自己評価について全てBとしている。先ほどご意見があったように、人材不足、人材の確保が課題という認識。そうした中で、インターンシップ受入れのプログラムづくりと、その情報を如何にして学生に届けるかということが非常に重要であり、改善すべきこと多いという考えからB評価としたところ。</p>
学校教育課	<p>「理数系人材育成協働事業（島根大学）」について説明する。</p> <p>取組内容等については説明済みのため省略する。この事業の取組について、多くの子どもが参加できるようにとのご意見も頂いているところ。</p> <p>単年度で全ての地区で開催するのは難しいが、今年度はまだ実施していない地区で実施し、広い地域や地区で開催をしていく。</p>
協働のひとづくり推進課	<p>「未来の担い手育成事業」について説明する。本事業は、子ども達を取り巻く環境の変化に伴い、教育に求められるものも変化する中で、子ども達の生き抜く力を養うためには、学校のみでなく、地域総がかりで子どもを育てる必要があり、これらをコーディネートする専門人材の配置や地域団体の活動を支援するという取組を行っている。本事業には3つの目標指標があり、1つ目は「つろうて子育て協議会実施回数」である。つろうて子育て協議会とは、公民館が事務局となり、地域の中の子どもに関する団体や、人の拠点となるネットワークのことで、令和4年度においては、実施回数が目標を大きく上回っている。つろうて子育て協議会と地域自治組織が連携して特徴的な事業が生まれている地区がある一方、こうした地区が限定的であるという課題もある。今後は、地域づくりとひとづくりが両輪となって、持続可能なまちづくりを実現するように、連携のまちづくり推進課と連携して、支援を行っていく。また、当初の目標設定が、令和7年度まで続いているが、今後目標指標の変更等について検討していかなければならないかと考えている。2つ目の目標指標は「学校の学びを地域活動に生かす取組の実施地区数」としており、目標の14地区に対し、20地区すべてで実施できている状況。学校で学んだことを地域の活動に生かしていくことで、子ども達の学びが深まっていくと考える。課題としては、社会教育コーディネーターの確保で、真砂地区に現在配置できていないという点。今後はそうした配置の方針というところも含めて検討を進めていく。</p> <p>3つ目の目標指標は「将来益田に住みたいと答えた新成人の割合」で、1月に実施した二十歳の集いの時に新成人を対象に調査している。調査時点での割合は増加傾向にあるものの、その後の就職先の候補として益田市が選択されていないという状況もうかがえる。今後は、益田で暮らしたいという意識を行動につなげていくよう促していく必要があり、「益田市版『ツナガル』事業」を中心に取り組んでいきたい。</p>
協働のひとづくり推進課	<p>続いて「ひとづくり推進事業」について説明する。</p> <p>取組の内容等については説明済みのため省略する。</p> <p>目標指標1点目「益田市には魅力的な大人が多いと答えた新成人の割合」について、これも二十歳の集いの時に新成人に対してアンケート調査したもので、</p>

	<p>目標 80%に対して 93.5%という状況。目標指標 2 点目「益田市で地域活動をした県外の若者の延べ人数と満足度」について。目標にある人数は、私立高等学校魅力化活動補助金を活用する市内私立 2 校の補助事業に参加した生徒のうち、県外出身者の人数をカウントしたもの。令和 4 年度においては、補助事業を活用した事業への参加者そのものが少なく、そのうち県外出身者の数もさらに少なかったため、目標人数を下回っている。満足度については目標値と同じ値となった。今後の課題として、補助事業の効果測定の手法があげられる。こうした活動に参加する子ども達が増えていった場合に、こうした活動が子ども達に対して、その後どういう影響を与えるかということも補足できるようにしていきたい。目標指標 3 点目「益田市で 1 週間程度、インターンシップや体験活動した延べ人数と満足度」で、数値については、中間支援組織である一般社団法人ゆたかな暮らしラボラトリーにおけるインターンの受入れ人数、大学生等フィールドワーク推進事業補助金の活用件数をカウントしたもの。インターンシップの確保については、中間支援組織による継続的な受入れにむけたルート活動を実施するとともに、補助金の利用促進を図っていきたい。目標指標 4 点目「ライフキャリア教育に関わる大人の数」について、益田市版カタリ場と新職場体験に参加した大人の数、中間支援組織に関わった大人のカウントしている。令和 3 年度から中間支援組織に関わった大人の数も加わったため、大きく数値が伸びている。目標指標 5 点目「ライフキャリア教育に関わる市外の若者の数」について、中間支援組織におけるインターンの受入れ人数をカウントしている。課題として、インターンを継続的に受け入れるための宿舎などの環境整備やマルチワークの推進があげられる。目標指標 6 点目「キャリア教育に参加した企業数」について、職場体験の実施にあたり受入れをされた企業数をカウント。目標 220 社に対し 135 社となっている。申し込み時点では 200 を超える事業所の申し込みがあったものの、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、135 という実績となった。引き続き、益田商工会議所と連携し、市内全ての登録事業所でライフキャリア教育を展開していく。目標指標 7 点目「将来益田に住みたいと答えた新成人の割合」については、未来の担い手育成事業にて説明済みのため省略する。</p>
協働のひとづくり推進課	<p>「市内高校連携推進事業」について説明する。 事業内容等については説明済みのため省略する。 この事業の目標指標は「中高一貫教育の推進に資する取組の数」で、市内 4 校の魅力化を目的とした委託事業・補助事業等で実施をした取組の数をカウントしている。昨年度は、目標 40 に対し実績 54 であった。</p>
協働のひとづくり推進課	<p>「公民館管理・拠点化推進事業費」について説明する。 まず、事業費について、2 億円以上の事業費となっているが、これは公民館単位ごとの活動補助金、公民館の職員の人件費や維持管理費なども含めた額のため、大きな数字となっているもの。目標指標は「公民館活動の参加者数」としており、進捗管理内の括弧内の数値は、参加者のうち高校生以下の参加者数となっている。カタリ場等、様々な手法を用いて多様な人が公民館活動に参加し、公民館活動の数も増加しているが、近年は新型コロナウイルス感染症の影響で減少傾向であった。令和 4 年度は少し回復している状況もあるが、設定目標には達していないという状況で、今後は社会教育活動のさらなる推進を図るため、安心して集まれる風土づくりや、新たな参加者を獲得するなど、工夫を凝らした展開をしていきたい。</p>
委員	<p>地方創生交付金活用事業ということで 8 事業あるが、交付金は全て後段にある中世益田の歴史を活かしたまちづくり館の関係も含めた 8 事業に使われたという認識で良いか。</p>
事務局	<p>その認識で良い。中世益田の歴史を活かしたまちづくり館の関係は、地域再生計画が別になっているため、後ほど説明させていただく。</p>
委員	<p>地域創生交付金はトータルでいくらあったのか。</p>
事務局	<p>おおよその数字ではあるが、令和 4 年度は約 2,300 万円で、各事業に割り振っている。事業費全額の半分を交付金で賄い、それ以外で、企業版ふるさと納税等、他の財源を充てた形となっている。</p>
委員	<p>「益田市版『ツナガル』事業」で、費用対効果が C となっていることについて。U・I ターンの支援ということで旅費などの費用がかかると思うが、良い取組で効果も出ているように思うので、個人的には B でも良いかと思う。</p>

委員	「未来の担い手育成事業」について、3つの目標指標の全てで実績値が目標値を超えている状況がある。先ほどの説明だと令和7年度を待たずして、途中で目標値の変更を検討しているということで良いか。
事務局	全体的に目標指標によって、目標よりも実績の方が上回っているものがあるが、現行の総合戦略（前期）自体が令和7年度までを一つの区切りとして進捗状況を確認していくものとなっている。令和7年度中に後期の総合戦略を策定していくことになるので、その中で見直しを進めていきたい。
委員	新成人対象のアンケート調査で「益田には魅力的な大人が多いと答えた新成人の割合」や「将来益田に住みたいと答えた新成人の割合」等の項目について、内容は毎年同じものか。
協働のひとづくり推進課	アンケート項目については、毎年同じである。成人式に来場している新成人を対象に、最近ではスクリーンにQRコードを映しアンケート調査を実施している。毎年360名ほどの参加があるが、ほぼ100%の回答率で信憑性は高いと考える。
委員	私もカタリ場に参加して、アンケート調査に回答したことがある。そこで感じたのは、アンケートに回答する時間が短いということ。イベントの終わりごろは時間がないため、余裕を持って回答を考える時間がほしい。より簡単に答えられる内容にするとか、考える時間を与えるなどの工夫があったら良いと思う。
協働のひとづくり推進課	頂いたご意見について、検討をしていきたいと思う。
委員	「将来益田に住みたいと答えた新成人の割合」の課題について、高校卒業後成人式を迎えるまでは、益田に帰ってくる意識が高いけれども、そのあと就職に繋がらないという話があり、益田版インターンシップの説明のところの8社参加に対し受入れ5名しかないという状況が、まさにそのことを表しているのではないかと。そしてそれは、一度市外・県外に出てしまった人が地元の企業に就職するのは、非常に難しいのということを表していると思う。そのためにも、中学生や高校生のときに地元の企業の見学をするなど、地元の企業を知ってもらうような取組が必要なのではないかと思う。これまでの説明以外で、そういった取組があれば教えてほしい。
産業支援センター	小中学生に対するアプローチについては、これまで協働のひとづくり推進課がカタリ場等を通じて行っているところ。高校生の段階でも、職場体験等の取組を実施している。そうした中で、高校を卒業した後のアプローチ・フォローが出来ていなかったというのが本市の課題であった。それを「益田市版『ツナガル』事業」で対応していきたい。
委員	公民館の活動をさらに充実させていく旨の説明があったが、公民館は地域を支えるために、既に多くの取組を実施しているところ。公民館の機能を最大限発揮するためには、既存の事業を整理・統合することも大切ではないかと思う。
協働のひとづくり推進課	そういったご意見を現場にもフィードバックしていきたいと思う。
委員	次に「中世益田の歴史を活かしたまちづくり館（仮称）を拠点とした人材育成・確保プロジェクト」に基づく事業の説明に移りたい。
協働のひとづくり推進課	歴史民俗資料館について、老朽化のため休館していたが、令和2年6月の日本遺産認定等の追い風を受け、2年かけて改修工事を行った。これにより、日本遺産の情報発信を行うエリア、益田市の歴史文化の展示を行うスペース、市民活動創出の拠点となる交流活動ルームが整備され、多機能施設となった。令和5年4月1日に開館したが、益田公民館と隣接しているため、駐車場が公民館利用者と重なってしまい、駐車スペースが限られるという状況がある。 その対策として、益田公民館を近くにある民間施設に移転することが決定している。 進捗状況については、来館者数を目標指標としており、令和5年度の目標は4,500人で、実績として4月が740名、5月が689名となっており、滑り出しについては目標達成できそうな数値が出ている。
事務局からの説明（資料3） ○「第2期まち・ひと・しごと創生益田市総合戦略」の検証方法について	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の検証方法は「第1期」での反省点を踏まえて数値的ではなく、文言による主観的な検証方法を用いて、改善が必要な事業や他の見本となる好事例的な事業を検証したが、やはりKPIを用いて客観的な数値による検証と評価を実施した法が良いとのご意見を委員から頂いた。</li> <li>・そうした経過を踏まえ、「第2期まち・ひと・しごと創生益田市総合戦略」の検証方法として以下の案を提案する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 検証方法 数値目標や推進施策KPIの達成度を検証する。検証項目は、KPIの達成状況、実績の状況、改善・見直し事項、今後の方向性とする。</li> <li>2 検証対象事業 単年度でKPIが設定されている事業で達成度が70%未満の事業と、令和3年度から令和7年度までの累計でKPIが設定されている事業で達成度が60%未満の事業とする。</li> </ol> </li> </ul>	
委員	<p>前々年度のようにKPIを用いて評価する方法は、基本的に数字をチェックする客観的な方法であるので良いと思う。</p>
<p>事務局から説明（資料4）</p> <p>○「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を踏まえた改定について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 概要・経過等 <p>国が令和5年度を初年度とするデジタル田園都市国家構想総合戦略を策定した。これはデジタルを活用して、全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会を目指し、地域の個性を活かしながら、地方の积欠課題解決や魅力向上を加速させることを目的に、第2期まちひとしごと創生総合戦略を抜本的に改正したもの。</p> <p>地方版のまちひとしごと創生総合戦略も、国の総合戦略を勘案しながら策定している。国からは地方自治体の改正について努力義務という形で通知が出ており、益田市においても改正について検討していきたい。</p> <p>内容的には既存の施策をデジタルの力を活用した取組に発展させるようなものになっており、KPIについては別紙に示されている内容を新たに設定するということになる。</p> </li> <li>2 改定案について <p>国がデジタル国家構想を掲げ、東京1極集中を是正していこうという流れの中で、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、リモートワークやサテライトオフィスといったものが推進されてきた。総合戦略における基本的な柱は変わらないが、そこにデジタルの要素を組み込んでいくということ。益田市においてもデジタルを使った取組を進めているところであるが、計画については、ある程度目途が立ってから委員の皆様にご提示することとなる。現時点では、国から「デジタル田園都市国家構想総合戦略」が示されている状況説明ということでご理解いただきたい。</p> </li> </ol>	
事務局	<p>次回は令和4年度の各事業について審議していただくことになる。引き続き積極的なご意見をお願いしたい。</p>